

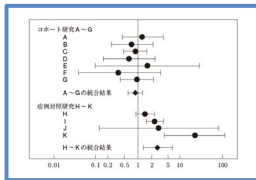
第43回 臨床研究推進啓発セミナー  
2022年度第1回 臨床研究発展セミナー

2022年 **9月15日(木)** 18:00-19:00

対象：研究者、医師・歯科医師、看護師・薬剤師等のメディカルスタッフ、事務職員などの病院職員、学生（学外の方も参加できます）

研究デザインBrushup

システマティックレビューの正しい読み方  
-GRADEシステムを理解する-



慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター  
教育研修部門 特任助教

安田 英人 先生

エビデンスに基づいた医療 (Evidence Based Medicine: EBM)は今や確固たる地位を獲得しており、EBMを実践しない医療は今や考えられません。エビデンスピラミッドによればEBMの頂点に立つのはランダム化比較試験 (Randomized Controlled Trial: RCT)を統合したシステマティックレビュー/メタ解析 (Systematic review: SR/Meta-analysis: MA)です。しかし、質の低いRCTを統合したSR/MAではその効果推定値の信頼性は決して高いとは言えません。結果の“信頼性”の評価をせず、出てきた結果を鵜呑みにして患者にその結果を適用した際には、患者に害を及ぼしてしまう可能性もあります。SR/MAの結果はエビデンスピラミッドの頂点にいるからこそ、その効果は諸刃の剣であり、益にも害にも傾いてしまいます。SR/MAの結果をどれくらい“信頼”して良いかは、“エビデンスの確信性”の評価なくして成し遂げられません。

“エビデンスの確信性”の評価のためにはエビデンスの質をGRADE systemで評価することが必要です。GRADE systemによる評価では、5つの要素を評価し最終的に4つのgradeに分類します (高、中、低、非常に低)。たとえ効果推定値とその95%信頼区間が臨床的に意味ある値であったとしても、エビデンスの確信性が“非常に低”の場合にはその結果を患者に適用するのに注意が必要です。本講演ではSR/MAを正しく読み解くために必要なGRADE systemの解説を行いながら、SR/MAの落とし穴について解説したいと思います。同時にSR/MAのrisk of biasの評価から見える質の高いRCTのポイントについても触れてみたいと思います。

お申し込み ▶ <https://education.ctr.hosp.keio.ac.jp/>



臨床研究教育研修 受講管理システムWebサイトより事前申込をお願いします。  
お申込頂いた方には、別途、受講案内メールを送付致します。  
当日は受講案内メールに記載された参加URLよりアクセスの上、受講して下さい。

